競技・審判上の注意

1　この大会は、令和7年度（公財）日本バドミントン協会競技規則および大会運営規程ならびに公認審判員規程、令和7年度全国中学校体育大会第55回全国中学校バドミントン大会要項および参加細則により行う。

【使用用器具等】

2　使用用器具は、（公財）日本バドミントン協会検定・審査合格用器具及び令和7年度第1種検定合格シャトルを使用する。

3　プレーヤーは、マッチ中、ステンシルマーク入りのラケットを使用してはならない。

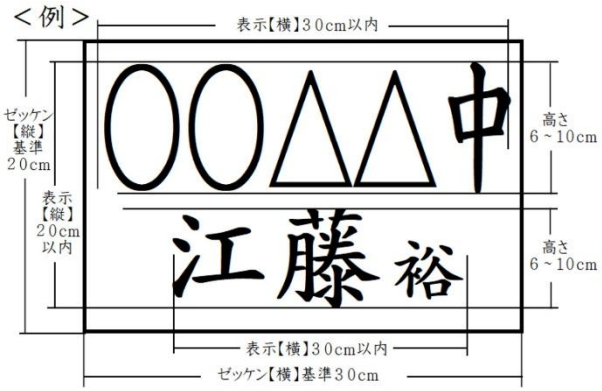
4　気温の上昇に応じて空調（冷房）を使用する。

5　審判員は、大会本部にて配置する。線審は2人編成で配置するが、準決勝・決勝については4人線審、サービスジャッジを配置する。

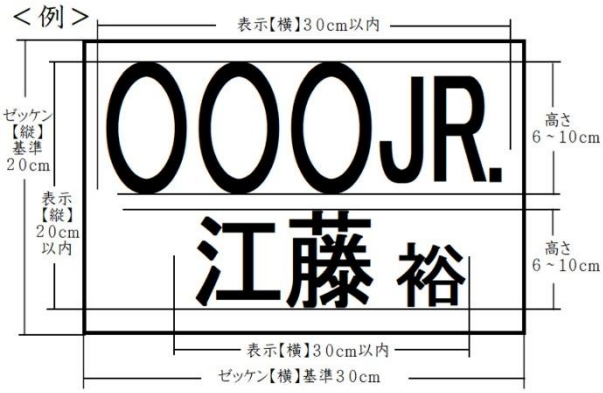
6　競技用ウェアは、(公財）日本バドミントン協会審査合格品とする。上衣背面中央部には、縦20cm、横30cmの範囲内にチーム名及び姓の表示をすること。その際に、競技用ウェア上衣背面にロゴや規定外の文字を直接プリントしている場合は、ゼッケンを用い、四隅を留めてそれを見えないようにすること。また、表彰・入退場・あいさつの際には、上衣の裾は下衣の中に入れること。

7　上衣の背面中央に必ずチーム名及び姓を明記（上段：チーム名、下段：姓）する。チーム内に同姓がいる場合には名前の一文字目を小さく入れること。ゼッケンを使用する場合、白の布地で縦20cm、横30cmの大きさを基準とする。（ゼッケンの場合の文字の色は、黒色または濃紺色とする。）文字列、背番号は視認性の高い文字（楷書体・明朝体またはゴシック体のような文字、数字（算用数字）を使用し、文字、数字の色は上衣背面の文字列、背番号表示部分の色と明確に区別できる色とする。
※アルファベットを用いる場合は、大文字を使用することを推奨。

①中学校（拠点校を含む）
＜正式名称＞ ○○市立△△中学校
＜ゼッケン・プログラム対戦表用名称＞ ○○△△中



②地域クラブチーム
＜正式名称＞ ○○ジュニアバドミントンクラブ
＜ゼッケン・プログラム対戦表用名称＞○○JR.



※都道府県内に、重複がなければ、「△△中」も可。

8　防汗や整髪のために、ハチマキの使用は認めるが、体裁良く結ぶこと。インナーについては、露出する場合は、審査合格品とする。

9 会場内では、チーム関係者・大会関係者は大会実行委員会から発行された ID カードを必ず携行すること。

10 ベンチまたはコーチ席に入る場合は、マッチにふさわしい服装で臨むこと。例えば、チームユニフォーム（Tシャツの場合、チーム名の表記があること）・シャツ、ポロシャツ、ブラウス、長ズボンまたはスカートとし、ジーンズや七分丈パンツ、バミューダ、ショーツ、スリッパ、サンダルは禁止とする。その適否判断は大会レフェリーに委ねるものとする。また、コーチ席に座る者全てにこの規定（公認審判員規程第5条12項（8））は適用される。
※今大会は、記念Tシャツ、広告やスポンサー名およびスポンサーロゴ、都道府面名のみの表記の服装は禁止とする。

【競技場への入場可能者】

11 団体戦について

（1） 引率者と監督者は同一人であること。ただし、引率する外部指導者が監督を辞退して依頼監督を依頼した場合を除く。

（2） 団体戦でベンチ入りができる者は、監督、マネージャーまたはコーチ、選手とする。

①団体戦の監督は下記の者とする。

・学校の場合：校長・教員・部活動指導員・外部指導者・依頼監督

・地域クラブ活動の場合：代表者・事務担当者（管理者）・指導者（登録済みの所属員であること）

②団体戦のコーチまたはマネージャーは、出場チームの下記の者とする。

・学校の場合：<コーチ>外部指導者

<マネージャー>校長・教員・部活動指導員・生徒

・地域クラブ活動の場合：

<コーチ>代表者・事務担当者（管理者）・指導者（登録済みの所属員であること）

<マネージャー>所属中学生（登録済みの所属員であること）

③外部指導者は、日常の部活動指導に携わっている者とし、出場校の校長が認めた者とする。その際、外部指導者は「外部指導者確認書（団体戦用）」を大会参加申込みと一緒に送付すること。なお、同一人が複数校の外部指導者にはなれない。また、当該校以外の中学校教職員は外部指導者にはなれない。

④地域クラブ活動で監督・コーチになれるのは、当該地域クラブ活動の登録済みの所属員である代表者・事務担当者（管理者）・指導者・所属中学生とする。また、マネージャーになれるのは、当該地域クラブ活動の登録済みの所属員である所属中学生とする。

（3） 団体戦の選手変更及び監督、マネージャーまたはコーチの変更については、疾病や傷害などの特殊な場合のみとし、開会式開始前（8月21日（木）8：30）までに書面（所定用紙）によって大会事務局に申し出る。なお、選手の追加は認めない。

（4） ここでいう「コーチ」は、公認審判員規程第5条第12項（9）に規定された「コーチ」を指すものではない。

<団体戦のチーム>

監督1名、コーチまたはマネージャー1名、選手5～7名（同一校・チーム）

	引率者	監督	コーチまたはマネージャー	選手
学校 （拠点校を含む）	下記の中から1名 出場校の ①校長 ②教員 ③部活動指導員 ④外部指導者 ⑤外部指導者 （引率のみ）	下記の中から1名 出場校の ①校長 ②教員 ③部活動指導員 ④外部指導者 ⑤依頼監督	下記の中から1名 ①マネージャー（校長） ②マネージャー（教員） ③マネージャー （部活動指導員） ④マネージャー（生徒） ⑤外部指導者 ※外部指導者は、大会参加申込時に外部指導者確認書（団体戦）を提出する。	5～7名
地域クラブ活動 （登録済みの 所属員であること）	下記の中から1名 ①代表者 ②事務担当者 （管理者） ③指導者	下記の中から1名 ①代表者 ②事務担当者 （管理者） ③指導者	下記の中から1名 ①コーチ（代表者） ②コーチ 【事務担当者（管理者）】 ③コーチ（指導者） ④マネージャー （所属中学生）	5～7名

※団体戦・個人ともに、校長・教員・部活動指導員が引率できないと校長が判断した場合、「全国中学校体育大会引率細則」により、校長が適切であると承認した外部指導者に引率及び監督の資格を認める。また、引率者としての外部指導者が監督を辞退する場合は、所定の手続により依頼監督を認める。外部指導者（コーチ）が監督（依頼監督を含む）となった場合、団体戦で、選手以外でベンチ入り（コーチ席入り）できるのは監督（依頼監督を含む）とマネージャー（生徒）のみ。個人戦で、選手以外でベンチ入り（コーチ席入り）できるのは監督（依頼監督を含む）と入場許可申請者（当該校教員は不可）のみ。

12 個人戦について

（1）引率者と監督者は同一人であること。ただし、引率する外部指導者が監督を辞退して依頼監督 を依頼した場合を除く。また、団体戦・個人戦共に出場する場合は、監督は同一人とする。

（2） 個人戦でコーチ席入りできる者は、監督（依頼監督を含む）及び下記の者とする。

① 団体戦に登録してあるマネージャーまたは外部指導者、選手（団体戦との重複出場の場合）。但し、外部指導者は団体戦・個人戦が同性種目の場合のみ可能である。異性種目のコーチ席入りをする場合は、入場許可申請をすること。

② 個人戦に登録してある選手。

③ 入場許可申請者（出場校・チームの校長・代表者の承認、実行委員会より入場許可を得た者。）

（3） 個人戦の入場許可申請は、大会参加申込みと一緒に送付すること。入場許可申請をする者は、複数校の入場許可申請をすることができない。入場許可申請は男女別の個人戦とし、それぞれ1名ずつの申請者を認める。

＜個人戦（シングルス・ダブルス）＞

	引率者	監督	入場許可申請者	選手
学校 （拠点校を含む）	下記の中から1名 出場校の ①校長 ②教員 ③部活動指導員 ④外部指導者 ⑤外部指導者 （引率のみ）	下記の中から1名 出場校の ①校長 ②教員 ③部活動指導員 ④外部指導者 ⑤依頼監督	出場校校長の承認を得て、実行委員会より入場許可を得た者。（当該校生徒も可） ※中学校教職員の場合、当該校以外の中学校教職員は入場許可申請はできない。	シングルス ダブルス
地域クラブ活動 （登録済みの所属員であること）	下記の中から1名 ①代表者 ②事務担当者 （管理者） ③指導者	下記の中から1名 ①代表者 ②事務担当者 （管理者） ③指導者	下記の中から1名 ①代表者 ②事務担当者 （管理者） ③指導者 ④所属中学生	シングルス ダブルス

※監督は、団体戦と出場を兼ねる場合、同一監督であること。
※入場許可申請者は、大会参加申込時に個人戦コーチ席入りにおける入場許可申請書を提出すること。
※男女種目を問わず団体戦登録メンバーの場合は、入場許可を申請する必要なし。
※外部指導者は同性種目の場合は、入場許可を申請する必要なし。異性種目の場合は、入場許可申請をする必要がある。
※地域クラブ活動で入場許可申請によりコーチ席入りができるのは下記の者とする。
当該団体の登録済みの所属員（代表者・事務担当者（管理者）・指導者・所属中学生）

13 コーチ席に座ることできるのは、以下の通りとする。コーチ席は2席とする。（IDカードを必ず身につけること）
団体戦…登録してある監督・コーチまたはマネージャー・選手
個人戦…登録してある監督・入場許可申請者・
団体戦に登録してあるコーチまたはマネージャー・選手
＊監督は優先してコーチ席に入ること。

【試合進行】

14 団体戦のマッチ順序は、D1→S→D2 の順に行い、2マッチ先取で打ち切りとし、その後のマッチは行わない。試合の進行状況により、2、3コート並行で実施することがある。

15 競技開始 30 分前を目安にオーダー用紙を提出し、相手チームとの交換を行う。オーダー交換所は、アリーナ退場口付近に置く。試合が連続する場合には、対戦相手決定後の10分後を目安に、オーダー交換を行う。(但し、大会 1 日目の第 1 試合のオーダー交換は、9時 30 分とする。)

16 タイムテーブルに基づいてマッチを進行する。進行状況により予定されたマッチの開始時刻やコートを変更することがあるので放送に注意すること。

17 簡易的な選手招集所を設ける。放送による招集後、招集所へ集合する。その際、指定された入場口から入場すること。

18 マッチが連続する場合は、次の試合までに少なくとも15分間の間隔を取る。

19 全参加チームが予定時に安全な帰着困難が予想される場合（災害、交通状況等によって）は、新たにタイムテーブルを組み直し、代替スコアリングシステムに変更し運営する。もしくは中止にする場合がある。

【会場内での公式練習】

20 朝の練習相手については次の通りとします。
団体戦・・・チーム内
個人戦ダブルス・・・パートナー
個人戦シングルス・・・ヒッティングパートナー（練習相手）
なお、大会に出場しないためIDを持っていないヒッティングパートナーは、大会に参加する日の朝の受付で申し出て、ヒッティングパートナーのIDを発行してもらい、着用すること。

21 マッチ前の練習について
（1） 団体戦はマッチ前に2分間とする。シングルスは対戦相手同士、ダブルスはパートナーと行う。
（2） 個人戦は3分間とする。シングルスは対戦相手同士で行う。
（3） シャトルは本部で用意する。

【入場時の携行品】

22 競技フロアーに持って行くものは、選手ID、交換用ラケット（ケースから出しておく）、着替え用競技用ウェア、タオル、大塚製薬（株）製のスクイズボトル等のドリンク、コールドスプレー類、滑り止め剤までとし、各自のバッグ等に収容する。救急セット、その他のものはベンチまたはコーチ席に置くこと。

【主審の許可】

23 水分補給、汗ふき、靴ひもの直し、滑り止めの使用、ストリングス（ガット）を切ることについては下記の点に留意し、必ず主審の許可を得てから行うこと。マッチ（試合）を中断しないように心掛ける。
（1） 水分補給の際は大塚製薬（株）製のスクイズボトル等（受付時に配布されたスクイズボトル、以前から所持しているスクイズボトル・スクイズボトルキャリー・真空断熱スポーツボトル）を使用すること。また、熱中症対策として個人が所有している水筒等（カバー付きのペットボトル）も併用して持ち込むことも可能とする。その際、他の飲料メーカーの名前やロゴが入っているものについては、テーピングでマスキングをする等、メーカー名が見えないようにすること。コートサイドにはかごやドリンクケースは設置しないので、バッグ等を持参し、コートサイドに置き、ドリンクも各自のバッグに収容すること。
（2） 氷嚢の使用はインターバルのときのみ認める。また、フロアー内への大きなクーラーボックスの持ち込みは禁止するが、ベンチまたはコーチ席の下に入るような小さいものは持ち込みを可とする。ただし、ベンチまたはコーチ席の下に置き、フロアーを濡らすことのないように十分注意すること。
（3） 団扇については、インターバル時のみ使用を認める。ただし、叩くなどの音を出す行為は、いかなる場合でも禁止とする。
（4） シューズの滑り止め（シューダスターボードなど）の使用はインターバルのときのみ認める（主審の許可は不要である）。プレー中はコートサイドに置いたままにせず、コーチ席に置くこと。
（5） ラケット交換時にストリングス（ガット）を切ることについては、プレーが不当に中断しない範囲で、素早く切ることができる場合に限り認められる。

【スコアリングシステム】

24 すべての種目を21点3ゲーム（ラリーポイント制）にて行う。スコアが20−20になった場合、その後 2点リードをしたサイドがそのゲームの勝者となり、29−29になった場合には、先に30点目を得点したサイドがそのゲームの勝者となる。

【サービス】

25 サービス時、シャトル全体が必ずコート面から1.15m以下でならなければならない。

26 サーバーは、スピンを加えずにシャトルを放し、ラケットで最初にシャトルの台を打つものとする。

【インターバル】

27 すべてのゲーム中に、一方のサイドのスコアが11点になったとき、60秒を超えないインターバルを認める。また、第1ゲームと第2ゲームの間、第2ゲームと第3ゲームの間に120秒を超えないインターバルを認める。また、インターバルを除き、マッチ中、主審の許可なしにコートを離れてはならない。

【アドバイス】

28 シャトルがインプレーでない場合で、プレーヤーがサービスとレシーブのために位置につくまでの間に限り、プレーヤーはマッチ中のアドバイスを受けることができる。プレーの遅延行為とならないよう、十分に注意すること。プレーヤーはインターバルを除き、マッチ中、主審の許可なしにコートを離れてはならない。コーチ席に座る者はインプレーでなくなった場合のみ移動できる。

29 インターバル中に、コートでアドバイスできるのは2人までとする。プレーヤーがエンドを変えた後にアドバイスをし、主審の「…20秒」のコールでコートから離れなければならない。（所定の席につくこと）

【抗議・異議、質問】

30 審判の判定に「抗議」や「異議」を唱えることは一切認められない。審判員の判定に対して疑問がある場合には、次のサービスがなされる前に、またはマッチ終わりであれば訴えるサイドがコートを離れる前に、個人戦ではプレーヤーが、団体戦では当該プレーヤーと監督に限り「質問」をすることができる。

【注意・警告・フォルト・失格】

31 以下の違反をしたサイドに主審は警告をする。一度警告を受けた後、再び違反した場合は、そのサイドをフォルトとする。目に余る不品行な振舞い、執拗な違反には、その違反したサイドをフォルトにする。一つのサイドによる警告後の違反行為によるフォルトは執拗な違反とみなされる。

（1） 体力や息切れを回復するためのプレーの遅延
（2） アドバイスを受けることによるプレーの遅延
（3） インプレー中にアドバイスを受ける違反
（4） プレーを故意に遅らせたり中断したりする行為
（5） シャトルのスピードや飛び方を変えるために故意にシャトルに手を加えたり、破損したりすること
（6） 審判員や観客に対しての横柄な振る舞い、下品で無礼な態度、言動
（7） ラケットや身体でネットなどのコート施設を叩くこと
（8） 耳障りな掛け声や叫び声を発すること
（9） 競技規則を越えた不品行または不快な行動

【会場ルール】

32 会場内の施設にシャトルが触れた場合はフォルトとする。（会場ルール）

【怪我・事故】

33 マッチ中に怪我または病気には慎重かつ適切に処理しなければならない。主審はこの問題についてできる限り早く決断するよう努めなければならない。もし、必要であればマッチを中断する。必要に応じてレフェリー（競技役員長）を呼び、その判断に従う。

34 全ての審判員は「人命は全てに優先する」を旨とし、プレーヤーをはじめとする全ての関係者が人命にかかわる事態に遭遇した際、速やかに人命救助、救命処置を躊躇せず実行する。

35 大会期間中の負傷・疾病については応急手当のみ行う。その後の処置は各自の責任とする。

【棄権】

36 棄権について

（1） 当該プレーヤーか監督がレフェリーに申し出る。（棄権届用紙に必要事項を記載し、提出する）
（2） 対戦前に対戦相手が棄権となった場合、勝者は選手招集のアナウンス後に、大会本部で勝者サインをする。
（3） 団体戦のマッチを棄権した場合、それ以降の団体戦や個人戦への出場はレフェリー判断とする。
（4） 団体戦ではプレーヤーおよび監督、個人戦ではプレーヤーがマッチの開始時にコートへの放送呼び出しに応じず、5分以上経過した場合、不戦勝として棄権の措置をとることがある。その判断はレフェリーが行います。

【禁止行為】

37 競技者およびコートサイドにいる者は、試合中における電子通信機器（携帯電話、スマートフォン、タブレット端末等）の使用を禁止する。コートに持ち込む際は必ず電源を切っておくこと。

38 競技エリア内での撮影は禁止する。（取材・写真販売業者等、あらかじめ許可を得ている者を除く）